

## IV 矢掛町における成果と 今後の課題

## 【成果と今後の課題】

### 〈テーマ1〉 各教科・領域等の授業及び学校給食を通じた食に関する指導

「生きた教材」となる学校給食献立の工夫を行うために、公益財団法人岡山県学校給食会や地元生産者の方々のご協力を得、地場産物を活用した給食献立実施と指導に取り組んできた。

実践中心校の中川小学校1・2年生学級活動では、「なんでもたべてげんきになろう～すききらいをなくそう～」を題材に養護教諭を交えたティームティーチングの授業を参観日を行うことにより、児童・保護者ともに行動の変容、意識の変容が見られた。

5年生の学級活動でも自分のおやつのとり方を見直すことをねらいとし、栄養教諭とティームティーチングを行うことによって、効果的な指導を行うことができた。授業後もおやつチェックカードを取り入れることによって実生活での定着につながった。

学級活動だけでなく、給食時の指導を繰り返し行うことによって自分の生活を見直し、改善につなげることができた。

また、食育講演会を開催することにより、学校のみならず家庭や地域での食育を見直すよいきっかけになった。5・6年児童も一緒に講演を聞く事により、より効果的な指導へとつながった。

今後の課題としては、中川小学校としてのテーマを絞って計画的に、継続した指導ができるよう取り組んでいくことが大切である。

### 〈テーマ2〉 朝食を中心とした食に関する指導の充実のための学校・家庭の連携

給食日よりでは、学校給食コンテストの結果の報告や、地場産物の紹介を行うことで学校給食への興味関心を高めることができた。

1年生の保護者を対象に行った給食試食会では、親子で一緒に食べる楽しさを体験し、コミュニケーションを図る良い機会になり、栄養教諭が朝食の役割について伝え、家庭との連携を求めることができた。

### 〈テーマ3〉 食に関する指導を充実させるための学校・地域の連携

学校給食献立コンテストで最優秀賞の献立をレシピ集にし、配布することにより学校給食への興味関心が高まった。

地域との連携を図ることにより、いろいろな立場から食育を推進することができた。

地域の方を招いて招待給食を行うことにより、コミュニケーションを図ることができた。今後の食育活動の協力者として更なる連携を深めたい。

この事業を通して、学校・家庭・地域が連携して取り組むことの大切さを改めて実感した。矢掛町食育推進計画のもと、ライフステージに沿った食育を推進していくことで、系統的な指導を行うことができた。

また、栄養教諭一人では成し得ないことも、学校・家庭・地域の協力があつたからこそ、岡山県学校給食発祥の地、矢掛町での101年目のスタートをすることができた。

今後は、中川小学校のみならず町内全ての学校において、この事業で培ってきたことを継続し、学校・家庭・地域と連携して「元気だね！ 食から築く 矢掛のみらい！～やさしさ かいてき げんき～」をテーマとして、さらに食育を推進していくことが重要である。

## 平成 24 年度「栄養教諭を中核とした食育推進事業に取り組んで」

矢掛町の学校給食の始まりは岡山県で最も古く明治 44 年に矢掛町立小田小学校の保護会が「ふかし芋」を貧困児童に昼飯として提供したことが記録に残っています。昨年 100 周年を迎え岡山県や学校給食会など関係団体のご協力をいただき盛大に記念式典を行いました。

このように、先人達が子どもたちの健やかな成長と学問を学ぶ環境を作るため、地域一丸となって取り組んできました。

現在の学校給食は献立メニューも豊富で栄養も味付けも工夫を凝らし、安全でおいしい給食の提供が図られています。しかし、家庭等の食生活では、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、栄養バランスの偏りや欠食や不規則な食事、生活習慣病の増加等、さまざまな問題が発生しています。

本町では平成 22 年 3 月に「矢掛町食育推進計画」を策定し「楽しく食べる」、「感謝して食べる」、「よく考えて食べる」、「残さず食べる」をキーワードに学校給食と地域が一体になって食育の推進に努め、学校・家庭・地域が連携して「元気だね！食から築く 矢掛のみらい！」、「**やさしさ**にあふれ、**か**いてきで、**げんきなまち**」をテーマに基づき、アクションプランとして育児相談、幼児健診、親子料理教室、老人クラブ料理教室などを開催し、食に関する知識と食を選択する力を身につけ、多様な世代が健康な心身と豊かな人間性を育む活動を行なっています。

本年度文部科学省の「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の指定を受け、矢掛町立中川小学校を実践中心校に定め、食育を推進するための 3 つの取り組みを実施しました。

- ① 食に関する指導を学校教育全体で取り組む。「なんでも食べて元気になろう、好き嫌いをなくそう」「おやつを取り方を見直そう」のテーマを掲げ、学級活動に実践を取り入れ、地場産品を使用した給食献立の実施、給食献立コンテストを行ないました。
- ② 朝食を中心とした食に関する指導の充実。学校・家庭の連携の実践としてバランスの良い朝食の献立作り、給食試食会の実施、家庭への啓発活動を実施しました。
- ③ 食に関する指導を充実。学校・地域の連携として、食育講演会の実施、地域の高齢者を招いての招待給食の実施、ぶどう狩り、弁当の日に取り組みました。

このように様々な取り組みを行なった結果、子どもたちの食に対する意識や食の大切さについて事業実施前より大きく改善されました。また、栄養教諭の学校での役割・重要性がより明確になり、今後において各学校での食に関する指導が一層充実するものと期待しています。今後も学校だけでなく、家庭や地域と連携してライフステージに応じた食に関する指導を充実させていかなければならないと考えています。

最後になりましたが、今年度の事業の実施に際しまして、ご指導ご協力をいただきました中国学園大学の山口享子先生、ご講演を賜りました竹下和男先生をはじめ、ご支援をいただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 25 年 2 月

矢掛町教育委員会

教育長 嶋山 栄二